

東久留米市まち・ひと・しごと創生推進懇談会
地域産業振興懇談会部会にていただいたご意見の概要

■開催概要

| | |
|--------|---|
| 【開催日時】 | 2015年10月14日（水） 18:00～20:00 |
| 【場所】 | 東久留米市役所 |
| 【出席者】 | 並木市長 委員：木村、水越、斎藤（利）、齋藤（京） 部会委員：東久留米市商工会、西武信用金庫東久留米支店、みずほ銀行東久留米支店、東和銀行東久留米西支店、りそな銀行東久留米支店、東和銀行東久留米中央支店、多摩信用金庫、青梅信用金庫東久留米支店、日本政策金融公庫三鷹支店、東京都中小企業診断士協会三多摩支部、関東経済産業局 事務局：佐々木、森山、他2名 オブザーバー：株式会社ぎょうせい 1名 |

■ご意見の概要

【市としての企業誘致のコンセプトを打ち出すべきだろう】

委員)

- ◇ まず、「活力あるまちづくり」を考えた場合、外へ発信するものと内側で頑張っ成するものの大きく2つに分類できる。外へ発信するものは、特区をつくる、東久留米市で作っている産業・作物を外へ向けていくという意見があり、今後も続けていくということであった。一方で、内側へ向けてというところでは、地域産業の競争力の強化という点では、上の原地区に新たな企業誘致というようにあるが、土地があつて安いから来てくださと言われても企業は来ない。都心から近くて良いという面もあるが、東久留米市としてどういうコンセプトで企業を誘致しているのかといった考えがないと企業を誘致するのは難しい。例として島根県や他の地方の県は、多額の税制優遇をしてもなかなか来ない。状況は違うかもしれないが、そういう面もある。どういう目的で企業誘致するのか、企業の目的や内容といったところまで、市で考える必要があるだろう。
- ◇ 場合によっては企業誘致も外国の企業メインにして誘致するのもあり得るだろう。そういった柔軟な発想の中で、1つコンセプトを決めて誘致をしないと、企業誘致と言葉は良いが現実的にどうするのかという時に議論がストップしてしまうだろうという印象である。骨子の具体的な施策を進める時には、ターゲットも含めてもう少し落とし込んだ議論をしていく必要があるだろう。

委員)

- ◇ 他市との比較をすると、埼玉県の富士見市や三芳町が住宅地として似ている。富士見市は鶴瀬駅を中心に住宅が形成されている。三芳町は駅から遠く不便だが誘致などを行ったため大きな財政がある。一方で、富士見市は、住宅は多いが財政は小さい。富士見市はららぽーとを建設する案が出ており、人の流れは大きく変わる可能

性がある。

- ◇ 東久留米市がどのように捉えているかがポイントになるだろう。産業振興、スポーツなど誰でも知っていて注目されるようなスーパースターや企業があればポイントが作りやすいが、難しいのであれば直近で何ができるのかが重要な議論だろう。富士見市のようにららぽーと建設など、人の流れを変えてしまうような大がかりなことができないのであれば、技術研究所を活用し小さなことでも起業につながるものがあればよいだろう。

委員)

- ◇ 市として、東久留米市に人が住みたい、あるいは会社が来たい、起業したいと思うものを整理すべきだろう。何か理由がないと選ばれないだろう。
- ◇ 足りないものは何か、現状できることは何かを分析し、きちんと計画を決め、一本の筋が通った事業にしないと、結局他市と変わらないものになるだろうし、今後もあまり変わらない市になるだろうと思う。

【子育て世代の望みをかなえられるような整備が必要】

委員)

- ◇ 共働きの子育て世代にとって、子どもの具合が悪いときにあずけられる場所がない。一方で、孫ができたというおばあさんが、家事の手伝いや乳児支援を事業として始めた人もいるが、なかなかうまくいかないという話を聞く。
- ◇ 団塊の世代など定年退職した人が働ける場をつくることで、労働人口の増加につながるのではないか。

委員)

- ◇ 人口を増やすのであれば、企業誘致が基本となる。企業を誘致し雇用が生まれれば人は来るだろう。
- ◇ 企業内保育所などを設置しやすい施策があれば、子育て世代を労働力として検討している企業からすれば、来たいと思うだろう。本市の特徴としても打ち出せる。
- ◇ 一方で、企業側は労働力が課題で、本市に限らずパートタイマーを雇用することも難しい企業も多い。労働力確保という支援を企業誘致と合わせて行ってはどうか。

【技術研究所は本市にとって財産】

委員)

- ◇ 東京都に唯一ある技術研究所が東久留米市にあることは市の財産だろう。
- ◇ 8月24日の地域産業振興懇談会の議題で、機械振興協会の技術研究所のスペースを利用し企業誘致をし、そこをインキュベーションにするという話があった。これは“しごとづくり”につながると思うが、戦略には入れていくのか。

委員)

- ◇ 機械振興協会の敷地内に研究棟がある。昨今は、機械産業がハードウェアよりもソフトウェアに移行している傾向にあり、研究棟に空きスペースができています。そのスペースは基本的に公的機関に貸し出されていたが、ここ数年は民間企業にも貸し出す方向となっている。その結果、3年前は3社程度だったのが現在は16社が空きスペースだったところを事業所として使っている。
- ◇ 呼び込むためには、単に提供するだけではうまくいかず、何か仕掛けが必要であるということで、2年前に2次産業の技術を持った方を1次産業の農業に転用しようというプロジェクトを立ち上げた。2次産業だけでは厳しい状況だが、2次産業で当たり前の技術を農業に転用するだけで喜ばれた。都外から実験用ハウスの設備に関するニーズなどもある。場所と値段だけでなく、引き込むための仕掛けがないとうまくいかないだろうと感じている。

【女性活躍の推進について】

委員)

- ◇ 人口ビジョンのM字カーブについて、東久留米市は、1990年から2010年でM字の谷が浅くなっており、出産・育児・子育てが終わった方が社会に戻るという良い傾向がみられる。何か具体的に手を打ち、改善に仕向けていったのか。
- ◇ M字の谷が浅いという点が、東久留米市の強み・機会であるとなれば、強みや機会の要因がそこに潜んでいる可能性もあり、アプローチとしては面白い。具体的に総合戦略の中で、更なる策を打てば、場合によってはM字どころか突き抜けるという特異ではあるが理想形の山形になるかもしれない。女性活躍をキーにしてバリエーションが考えられないか。
- ◇ 地域における事業所数も減っている。企業数を維持し増加させることが大変重要である。そのため、創業における支援を地域の皆様と起業家がタイアップして行っている。女性による起業も応援の対象になるだろう。女性への起業支援融資は、金利が抑えめであるなど、制度も充実している。
- ◇ 一方で、女性による起業や女性が地域の企業に就業する、ということに対して支援する施策が必要である。ソーシャルビジネスも1つであろう。育児支援・家事代行などを行い、主婦の負担を軽減し、社会で起業したり勤めたりと、社会に出てもらう。間接的な支援にはなるが、非常にこれが極めて大事になるだろう。女性が働きやすい環境整備を総合戦略で謳うという方向も良いのではないか。

委員)

- ◇ 女性活躍は、男女共同推進にも関連してくる分野である。女性が活力を持って働く環境は、現在政府でも8月から施策を実施しており、本市においても行っていくことは非常に重要であろう。本市としてどのように支援するのが重要となろう。
- ◇ 企業側からすれば、税制優遇してくれるのか、貸付金を安くしてくれるのか、とい

った点がポイントになるだろう。それによって、働く場所が増え、活力が広がって
いけば良い。

- ◇ 市のブランド認定をもらった企業に対して特別優遇するというのは、アイデアとして
は面白い。

委員)

- ◇ 女性が起業したいと思えるようなものがないため、起業したいと思う発端となるよ
うな研究会や研修を行っていく必要はあるだろう。
- ◇ あまり起業しようと思う人がいないのは、支援があまりない中で起業して働くほど
のうまみがないから。一步を踏み出せるようなことを市でやられると良いのではな
いか。男女平等と変に優遇されてもおかしいものになるという意識もある。

【このまちの身の丈にあった産業振興施策を打ち出すのがよいだろう】

委員)

- ◇ 産業振興に関するデータ分析は行っているか。どのような産業振興をしていくのか、
他市との比較は必要ではないか。
- ◇ 色々とやった方がよいとは思いますが、財政的な問題などもあるだろう。それよりは、
データ分析をきちんとしたうえで、このまちの身の丈にあった産業振興施策や応援
をしていくべきではないか。
- ◇ 自然増減、社会増減いずれも、他市と比べても奇妙な動きをしているように思うた
め、深く分析されてはどうか。あるいは、他市と比べてどのような産業が多く少な
いのか。そのあたりを分析し、東久留米市としてどのようにするのかを打ち出して
はどうか。
- ◇ 西東京市の人口は伸びており、東久留米市だけなぜ伸びないのか、現状を認識して
はどうか。都心に近い分、待機児童が他市に比べて多い。そうすると、女性活躍に
関する施策が多くなってくるのではないか。
- ◇ 環境・農業と産業をどのようにかみ合わせるかという概念があると良いのではない
か。農地割合は本市は 14%となっており、地元で土地を買い求めてくる、あるいは
きれいな川があり地元産農産物も帰るなど自然が豊かと思ってこられる方は多いだ
ろう。また、施策として少ない資金でできる施策だろうと思う。
- ◇ 本市は NPO が活発という認識である。現在 70 団体ほどあると思うが、他市と比べ
て自治会加入率が低いので NPO が自然的に増えてきたと予想するが、きちんと情報
交換がなされると良いだろう。
- ◇ 地域産業の特徴が出にくいまちなので、創業を進めていくしかないと思うが、マン
ションの中に住んでいる人をいかに創業の方向に持っていきかが課題だろう。これ
ができれば本市の特徴になるだろう。身の丈にあった産業振興を積み重ねていくこ
とが必要ではないか。

【元気な高齢者の活用】

委員)

- ◇ NPO やソーシャルビジネスが多い印象。介護・福祉、女性のほかに、元気な高齢者の活用も考えるべきではないか。

【大規模な企業誘致で他市との違いを出してはどうか】

委員)

- ◇ 東久留米市は、土地はあるがそれをうまく使いきれていない印象がある。北口商店街も厳しい状況が続いており、農業についても本当に農業で生計を立てている人がどれだけいるのか。土地を売って賃貸住宅として不動産経営している方が主となっている地権者が多いように感じる。地権者との話し合いを大切にしながら、より効果的な土地の活用を検討してはどうか。
- ◇ 一方で、高速道路の立地環境は良い。
- ◇ 女性活躍や起業支援などは大切だが、即効性やインパクトは小さい。人の流れを大きく変えたいのであれば、大規模な企業誘致等をし、そこにマーケットがあるから創業が生まれるという流れをつくるべきだろう。

委員)

- ◇ 東久留米市は、高齢者人口が清瀬市に次いで多い。地権者が亡くなると土地を売り、後継者は農業をやらないという人が多いだろう。
- ◇ 一方で、東久留米市には大きな農地がある。建設業としては、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、都内でも大きな土地がある本市に目を向ける業者は増えるだろう。
- ◇ 地権者が農業をやらなくなった土地を貸し、企業を誘致するといった、高齢者が多く大きな土地があるからこそ呼び込めるようなことができないか。他市との違いを出せる大きな変化になるだろう。

【上の原地区再開発について】

委員)

- ◇ 上の原地区再開発について、UR と市、国の 3 者の再開発に関する方向性や意見調整を行い、積極的に推進してほしい。

【ブランド認定事業について】

委員)

- ◇ 男女平等の観点から、男女平等の観点を鑑みている企業に対して東久留米市が評価するというのは、当初は市のお墨付きがあつて良いかと思つたが、企業からすれば

無いよりはまし程度で、役に立たない。特区や条例などで、市が応援するという姿勢を見せなければ、企業は動かないだろう。例えば、他の自治体では、入札の際に優先権が得られるなど、入札条件にする施策を行っている。ブランドの認定事業をするとなると、そこまで落とし込まないと、実際には企業は動かないだろうと、他の自治体の事例を見ても感じる。

委員)

- ◇ 東久留米市でできるものは、そこまで大したものができるわけではないと思うが、それがブランドとして認定されて大丈夫なのか。

委員)

- ◇ ブランド認定事業について、市の産業政策課と商工会議所が協働で 3 年間実施している。商工会としては、1 年目は物産、2 年目が飲食のメニューの独自性、3 年目が技術・工芸部門の特色を市外に発信するといった取り組みを行う予定でいる。特徴のない市ではあるが、湧水などの特徴を使い特色を出していきたい。
- ◇ 商業に限らず工業の業者数は本市では限られているが、ビックサイトや横浜アリーナ、埼玉スーパーアリーナで展示等も実施している。市外からも住みやすいまちとして伸びていければと思いついている。創業支援に関しても、さまざまな団体と協力して創業塾やセミナーなどの創業支援に取り組んでいる。こういった流れのなかで商工会が事務局となって地域産業振興懇談会を実施している。

委員)

- ◇ 創業塾などの参加者数はエリアによってばらつきがある。時間帯やカリキュラムに工夫が必要だろう。
- ◇ 創業は失敗が多いため、セミナーの状況を伺いながら良いものをつくりたい。

委員)

- ◇ 食の魅力をいかに活用するかという視点で、雇用の場の宣伝に活用してはどうか。

【イベントだけでなく人が集まったときに受け入れられる整備は必要ではないか】

委員)

- ◇ 観光資源活用促進については、主要イベント動員 95,000 人、西武とともに行われている七福神は非常に多くの方々来られて良いイベントだと思う。スポーツの観点で考えていくと、今は 2020 年に関してさまざまな自治体が誘致を行っている。しかし、2020 年のオリンピック・パラリンピックに関係なく、東久留米市で全日本の合宿をするにしてもホテルがない。箱モノをつくるということではないが、観光資源を活用した場合には、人が集まった時に受け入れられるような、イベントを打つだけではなく、もう一歩進んだアイデアが必要ではないか。東久留米市では外国人も非常に多くなってきているし、学校もある。首都圏に近く、クリスチャンアカデミーのような学校があるのは、友人の外国人も非常に良いと言っていた。

【東久留米市は住みやすいまちと評価する人が多いまちである】

委員)

- ◇ まちが整備されており、ネオン街もそれほどなく、買い物できる場所もあり、住みやすいまちとして探している人も多いだろう。
- ◇ 川で子どもたちが飛び込んで遊んでいたことにはびっくりする。

【交通の便の良さは感じる】

委員)

- ◇ 東久留米市に来て3年になるが、都内に対する交通の便の良さを一番感じる。

委員)

- ◇ 池袋や横浜に行きやすいという交通の魅力。バス路線や道路の状況などを踏まえ交通の魅力を整理してはどうか。

【高齢者も安心して住み続けられるまちに】

委員)

- ◇ 防災・医療介護の充実。若い人がそれなりに入っている一方で、団地の高齢化や空き家問題がある。年をとっても介護や医療が安心して居続けられるようなネットワークを整理してはどうか。

【人のつながりの視点も重要】

委員)

- ◇ 協働の輪を広げていくような仕組みをつくることに市が取り組まないと、高齢化や子育て支援などの施策でも近隣市に負けてしまうだろう。環境や農業の良さだけでなく、人のつながりの視点もこれからは重要ではないか。

委員)

- ◇ ソフトな場づくりが必要であろう。おやじバンドがでたりする遊びの場があったり、一方で真面目な場があるなど、市として場づくりを進められるリーダー的な存在を発掘してはどうか。